

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部局・関係委員会名：学生総合支援センター

記入責任者：大迫 宗昭

基準 6 学生支援						
(1) 学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう学生支援に関する方針を明確に定めているか。						
<各部局・関係委員会評定>	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評定>	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
1. 【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
1. 学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する方針の明確化						
【評価に際し留意すべき事項】						
1. 達成度評価						
① 修学支援、生活支援、進路支援に関する方針を、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえながら定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。						
【行動計画】						
関係する委員会において修学支援・生活支援・進路支援方針を定め、その方針を踏まえた事業・取組みを策定する。						
2. 【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】						
平成 28 年度に、修学支援・生活支援・進路支援方針について検討したものの、策定まで至っていない（資料 6-1-1）。						
平成 29 年度に向け、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえながら方針を策定する。						
3. 【長所・特色】						
平成 28 年度は、修学支援・生活支援・進路支援方針の策定まで至っておらず、特記事項なし。						
4. 【課題】						
関係する委員会において修学支援・生活支援・進路支援方針を定め、その方針を踏まえた事業・取組みを策定する。						
5. 【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】						
修学支援、生活支援、進路支援に関する方針を、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえながら定め、その方針を教職員で共有し、事業・取組みを策定する。						
6. 【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること						
1. 資料 6-1-1 「平成 28 年度進捗状況」						

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>
<所見>
<p>大学は、学生生活を通して豊かな人間性を涵養し、学生の資質・能力を十分に発揮させるために、適切な環境を整えるとともに、それぞれの学生の個性に応じた学生生活上の指導・助言を適切に行う必要がある。これまで本学は、関係する部局・委員会で議論を重ね、様々な学生支援を行ってきたが、学生支援に関する方針が定まっていなかった。平成 29 年度前期までには、学生支援に関する方針を定め、教職員で共有し、その方針を踏まえた事業・取組みを行う必要がある。</p>

※各項目について、2～3 行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部署・関係委員会名：学生課

記入責任者：山下 友司

基準 6 学生支援						
(2) 学生への修学支援は適切に行われているか。						
<各部署・関係委員会評定>	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評定>	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
1. 【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
1. 留年者および休・退学者の状況把握と対処の適切性						
【評価に際し留意すべき事項】						
1. 達成度評価						
②方針に沿って、修学支援、生活支援、進路支援のための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しているか。						
(評価するにあたり、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであることに留意する)						
<修学支援>						
・留年者及び休・退学者の状況把握と対処						
【行動計画】						
方針に基づいた留年者および休・退学者への支援方針を策定する。						
2. 【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】						
平成 28 年度は、修学支援・生活支援・進路支援方針について検討したものの、策定まで至っていない（資料 6-1-1）。なお、休・退学者の状況把握と対処の適切性については、状況を把握し、各学科において退学率改善の対策を策定し、クラス担任又は演習担当教員が学生の授業出席や単位修得状況を把握しながら、修学相談、休学・退学の相談を実施している。						
平成 27 年度退学率 3.8%に対し、平成 28 年度退学率は 3.4%となり、前年度比-0.4 ポイントの改善を図ることができた（根拠資料 6-2-1）。						
3. 【長所・特色】						
平成 27 年度に NEWVERY による本学の実態把握を行うため、退学率の高い経済学部の学生へのヒアリングを行い、様々な角度から分析を行った結果、早期の中退予防の施策として、平成 28 年度から全学科の新入生ゼミナールに SA（スチューデント・アシスタント）を配置し、問題を抱えた学生への把握と対処に努めている（根拠資料 6-2-1）。						
4. 【課題】						
①留年率及び退学率を、さらに下げるとの方策が必要である。						
②メンタル面に問題を抱えた学生への、学生課と教務課の連携した支援が必要である。						
③早期からの中退予防方策など、学びの目的や大学生活での目標を持たせ、維持するための方策が必要である。						
5. 【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】						
休・退学率低下の取組みとしては、毎週メールにて連絡のある出席状況が芳しくない学生への早めの出席支援を、クラス担任又は演習担当教員へ依頼する。なお、学生生活に不安が多い 1 年生に対しては、新入生ゼミナールの SA を活用し、同じ学生目線での意見等を取り入れながら仲間作り等の支援も、あわせて						

依頼する。

また、メンタル面に問題を抱えた学生については、従来どおり学生相談室スタッフと連携するとともに、平成 29 年度から学生課に新しく配置する修学支援員も活用していく（根拠資料 6-2-2）。

**6.【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること**

1. 資料 6-1-1 「平成 28 年度進捗状況」
2. 資料 6-2-1 「学生委員会資料（H.29.4.12）」
3. 資料 6-2-2 「学生委員会資料（H.29.5.10）」

**<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>**

**<所見>**

留年者および休・退学者への支援方針の策定には至っていないが、各学科で退学率改善対策を策定し、クラス担任又は演習担当教員が学生の授業出席や単位修得状況を把握しながら、修学相談、休・退学の相談を実施した。また、全学科の新入生ゼミナールに SA（スチューデント・アシスタント）を配置し、問題を抱えた学生への把握と対処に努めた結果、平成 28 年度退学率は 3.4%となり、前年度比-0.4 ポイントの改善を図ることができた。

※各項目について、2～3 行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部局・関係委員会名：教務部教務課

記入責任者：星田次子

基準 6 学生支援						
(2) 学生への修学支援は適切に行われているか						
<各部局・関係委員会評定>	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評定>	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
<b>1.【自己点検・評価する際に留意した点】</b>						
<b>【評価の視点】</b>						
1. 留年者および休・退学者の状況把握と対処の適切性						
<b>【評価に際し留意すべき事項】</b>						
2. 達成度評価						
①修学支援，生活支援，進路支援に関する方針を，理念・目的，入学者の傾向等の特性を踏まえながら定めているか。また，その方針を教職員で共有しているか。						
②方針に沿って，修学支援，生活支援，進路支援のための仕組みや組織体制を整備し，適切に運用しているか。						
〈修学支援〉・留学者及び休・退学者の状況把握と対処						
<b>【行動計画】</b>						
方針に基づいた留年者に対しての修学支援の在り方を策定する。						
<b>2.【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】</b>						
留年者の状況把握と対処の適切性については，毎年度，留年率の状況を把握している（資料 6-2-1）。						
留年者に対しては，成績発表時に履修相談に関する個別相談を行っている他（資料 6-2-2），4 年生全体の中で指導の時間を設けて実施している（資料 6-2-3）。						
<b>3.【長所・特色】</b>						
留年者の状況把握を行っている他，留年者に対して個別に履修相談できる体制を整えている						
<b>4.【課題】</b>						
方針を早急に策定する必要がある。そのうえで，留年者に対しての修学支援の在り方を整理する必要がある。						
<b>5.【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】</b>						
方針を策定したうえで，留年者に対しての修学支援の在り方を整理し，適切性の検証を行う。						
<b>6.【根拠資料】 資料名を明記し，現物を添付すること</b>						
1. 資料 6-2-1 「教務委員会資料」						
2. 資料 6-2-2 「成績発表資料」						
3. 資料 6-2-3 「オリエンテーション資料」						

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>
<所見>
留年者の状況把握を適切に行っている他，留年者に対して個別に履修相談できる体制を整えていることは評価できるので，修学支援の方針策定のうえ，支援の充実に期待する。

※各項目について，2～3 行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部局・関係委員会名：教務部教務課

記入責任者：星田次子

基準 6 学生支援						
(2) 学生への修学支援は適切に行われているか						
<各部局・関係委員会評定>	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評定>	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
1. 【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
2. 補習・補充教育に関する支援体制とその実施						
【評価に際し留意すべき事項】						
2. 達成度評価						
①修学支援, 生活支援, 進路支援に関する方針を, 理念・目的, 入学者の傾向等の特性を踏まえながら定めているか。また, その方針を教職員で共有しているか。						
②方針に沿って, 修学支援, 生活支援, 進路支援のための仕組みや組織体制を整備し, 適切に運用しているか。						
〈修学支援〉・学生の能力に応じた補習・補充教育の実施						
【行動計画】						
方針の中に支援対象基準や支援内容について明示するとともに, 各学部・学科や事務局などが行っている取組みを整理し, 把握する。						
2. 【達成状況報告(平成 28 年度末現在)】						
修学支援に関する方針を検討中である。						
3. 【長所・特色】						
平成 28 年度入学生から GPA 制度を導入し, 学期 GPA が一定値以下の学生には担任又は指導教員が面談をし, 必要な学習支援を行っている。面談では, 必要に応じて基礎力アップ学習会への参加も促している(資料 6-2-4)。						
4. 【課題】						
方針を早急に策定する必要がある。そのうえで, 各部局等で実施している修学支援の取組みの現状を把握し, 整理する必要がある。						
5. 【全体のまとめ(将来を視野に次年度に向けた発展方策)】						
方針を策定する。各学部・学科や事務局などが行っている取組みを整理し, 把握する。						
6. 【根拠資料】 資料名を明記し, 現物を添付すること						
1. 資料 6-2-4 履修規程						

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>
<所見>
平成 28 年度入学生から GPA 制度を導入し, 学期 GPA が一定値以下の学生には担任又は指導教員が面談をし, 必要な学習支援を行うなど目標はほぼ達成されている。修学支援の方針策定のうえ, 支援の充実に期待する。

※各項目について, 2~3 行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部署・関係委員会名：企画・国際課

記入責任者：大里 和博

基準 6 学生支援						
(2) 学生への修学支援は適切に行われているか。						
< 各部署・関係委員会評定 >	0	1	2	3	<input checked="" type="checkbox"/> 4	※数値を○で囲んでください
< 自己点検・評価実施部会等評定 >	0	1	2	3	<input checked="" type="checkbox"/> 4	※数値を○で囲んでください
1. 【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
1. 補習・補充教育に関する支援体制とその実施						
【評価に際し留意すべき事項】						
2. 達成度評価						
②方針に沿って、修学支援，生活支援，進路支援のための仕組みや組織体制を整備し，適切に運用しているか。						
・学生の能力に応じた補習・補充教育の実施						
【行動計画】						
留学生に対し，1年を通じた日本語能力向上を目的とした日本語課外教室を実施するとともに，国際交流委員会においてその実施状況及びその実績について自己点検・評価する。その後，自己点検・評価実施部会「学生支援部会」において，評価の視点が達成されたかの適切性を検証する。						
2. 【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】						
日本語能力の向上と国際交流の促進を目的とした日本語課外教室を，平成 28 年度前期（4 月 13 日～7 月 27 日）及び後期（9 月 28 日～1 月 18 日）の期間中毎週一回国際交流会館で実施した（資料 6-2-1, 6-2-2, 6-2-3）。また，留学生・日本人学生・教職員等を合わせ累計 81 名の参加があった（資料 6-2-4）。						
3. 【長所・特色】						
留学生の日本語能力試験対策学習を基本として，定期的に交流行事を実施し，留学生が日本語を自主的に学び，また，日本人学生との相互学習と交流の場を提供することができた。（資料 6-2-5）						
4. 【課題】						
個々の留学生の自主性を尊重し，教室としての目標値等は設定していなかった。						
5. 【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】						
次年度以降も留学生の日本語能力向上を主たる目的とし，かつ留学生と日本人学生が自由に参加できる学習と交流のプラットフォームとして機能するよう継続実施する。なお，平成 29 年度は具体的成果の検証のため日本語能力試験 N1 合格者数（3 名）を目標とする（資料 6-2-6）。						
6. 【根拠資料】 資料名を明記し，現物を添付すること						
1. 資料 6-2-1 「2016（平成 28）年度第 1 回大学評議会議事録」						
2. 資料 6-2-2 「原議書 平成 28 年度前期「日本語課外教室」実施に係る講師委嘱及び学生 SA の雇用契約について（伺い）」						
3. 資料 6-2-3 「原議書 平成 28 年度後期「日本語課外教室」実施に係る講師委嘱及び学生 SA の雇用契約について（伺い）」						
4. 資料 6-2-4 「参加者名簿」						

5. 資料 6-2-5 「日本語交流イベント」

6. 資料 6-2-6 「津曲学園中期ビジョン 2017～2021」

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>

<所見>

留学生に対し、日本語能力向上を目的とした日本語課外教室を、前期（4月13日～7月27日）及び後期（9月28日～1月18日）の期間中、毎週一回1年を通じて実施した。留学生の日本語能力試験対策学習を基本としており、また、日本人学生との相互学習と交流の場を提供することができたことを評価する。

※各項目について、2～3行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部署・関係委員会名：研究教育開発センター会議

記入責任者：大里 和博

基準 6 学生支援						
(2) 学生への修学支援は適切に行われているか。						
<各部署・関係委員会評定>	0	1	2	<input checked="" type="checkbox"/> 3	4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評定>	0	1	2	<input checked="" type="checkbox"/> 3	4	※数値を○で囲んでください
<b>1.【自己点検・評価する際に留意した点】</b>						
<b>【評価の視点】</b>						
・補習・補充教育に関する支援体制とその実施						
<b>【評価に際し留意すべき事項】</b>						
〔達成度評価〕						
・学生の能力に応じた補習・補充教育の実施						
<b>【行動計画】</b>						
学科の学びに対する「興味」「関心」を育てるために、推薦入試合格者を対象にウォーミングアップ学習、AO 入試 I 期からⅢ期の合格者を対象に入学前課題学習を行う（資料 6-2-1）。						
<b>2.【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】</b>						
各学科の方針に基づき、推薦入試合格者を対象にウォーミングアップ学習、AO 入試 I 期からⅢ期の合格者を対象に入学前課題学習を行った（資料 6-2-2）。						
<b>3.【長所・特色】</b>						
大学で学ぶ専門領域に関心を持ち、スムーズに大学での学びに漕ぎ出せるよう、各学科の教員が考案した課題を推薦入試合格者及び AO 入試 I 期からⅢ期の合格者を対象に入学前教育を取組ませている。 また、課題提出されたものについては、学科独自で添削を行いフィードバックしている（資料 6-2-2）。						
<b>4.【課題】</b>						
鹿児島国際大学自己点検・評価規程改正の趣旨に基づいた適切性の検証を各関係委員会において自己点検・評価を行ったうえで、実施部会において、継続的に実施する必要がある。						
<b>5.【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】</b>						
適切性の検証を各関係委員会において自己点検・評価を行ったうえで、実施部会において、継続的に実施する必要がある。						
<b>6.【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること</b>						
資料 6-2-1 「2016（平成 28）年度 鹿児島国際大学 ウォーミングアップ学習」課題冊子						
資料 6-2-2 「2016（平成 28）年度 鹿児島国際大学 ウォーミングアップ学習取組状況」						

<b>&lt;自己点検・評価実施部会等による適切性の検証&gt;</b>
<b>&lt;所見&gt;</b>
大学の各学部・学科の方針に基づき、各学科の教員が考案した課題をウォーミングアップ学習（入学前教育）として取組ませ、学科独自で添削を行いフィードバックしていることを評価する。高等学校教育から大学教育への連続性を検証し、よりスムーズに大学での学びに繋がることを期待する。

※各項目について、2～3 行を目安に簡潔に記載してください。



基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部局・関係委員会名：学生課

記入責任者：山下 友司

基準 6 学生支援						
(2) 学生への修学支援は適切に行われているか。						
< 各部局・関係委員会評定 >	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
< 自己点検・評価実施部会等評定 >	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
1. 【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
3. 障がいのある学生に対する修学支援措置の適切性						
【評価に際し留意すべき事項】						
1. 達成度評価						
障がい学生に対する修学支援の実施						
【行動計画】						
「合理的配慮」の具体的内容を明示した、障がいのある学生の受入れ及び支援に関する基本方針の策定及び障がい学生支援のための具体的な対策を策定する。						
2. 【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】						
「合理的配慮」の具体的内容を明示した、障がいのある学生の受入れ及び支援に関する基本方針の策定まで至っていない（資料 6-1-1）。						
平成 29 年度に向け、方針の策定及び支援のための具体的な対策を策定する。						
3. 【長所・特色】						
全学として障がいのある学生に対する修学支援体制の組織はないが、入学生に対しては、関係部局による入学前の支援相談を行っている。また、在学生に対しては、保健室で聞き取りを行い、配慮する内容を教授会において周知し、個別に科目担当者へ配慮依頼を行っている。その他、平成 28 年 4 月から学生ボランティア支援センターが発足し、障がい学生の支援のための対策やノートイク研修会を実施している（根拠資料 6-2-3, 6-2-4）。						
4. 【課題】						
基本方針の策定を受け、学生ボランティア連絡会議と福祉社会学部学生支援委員会等と連携し、障がい学生の支援のための具体的な対策を検討するとともに、その適切性の検証を継続的に実施する（根拠資料 6-2-5）。						
5. 【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】						
障がいのある学生の支援に関する基本方針の策定により、学生に対する修学支援の満足度を高めるとともに、その適切性の検証を継続的に実施する。						
また、「学生ボランティア支援センター」の継続事業として、ノートイク研修会を実施し、支援を必要とする学生とのマッチングを行っていく。						
6. 【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること						
1. 資料 6-1-1 「平成 28 年度進捗状況」						
2. 資料 6-2-3 「教授会資料（H.28.4.20）」						
3. 資料 6-2-4 「学生委員会資料（H.29.4.12）」						
4. 資料 6-2-5 「鹿児島国際大学学生ボランティア支援センター設置要綱」						

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>

<所見>

平成 29 年度前期中に、障がいのある学生の受入れ及び支援に関する基本方針を策定する必要がある。基本方針の策定を受け、学生ボランティア連絡会議と福祉社会学部学生支援委員会等と連携し、障がい学生の支援のための具体的な対策を検討しなければならない。

※各項目について、2～3 行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部署・関係委員会名：学生課

記入責任者：山下 友司

基準 6 学生支援						
(2) 学生への修学支援は適切に行われているか。						
<各部署・関係委員会評定>	0	<input checked="" type="radio"/> 1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評定>	0	<input checked="" type="radio"/> 1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
<b>1.【自己点検・評価する際に留意した点】</b>						
【評価の視点】						
4. 奨学金等の経済的支援措置の適切性						
【評価に際し留意すべき事項】						
1. 達成度評価						
奨学金等の経済的支援の実施						
【行動計画】						
奨学金返還の意識向上に向けた対策の策定及び給付型による奨学金制度導入の検討						
<b>2.【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】</b>						
<p>本学では、健康で学業成績や人物が優れ、経済的理由のために修学が困難な学生に対し、学業の継続を目的とした各種の奨学金制度がある。現在、約 1,700 名の学生が奨学金の貸与・給付を受けて学生生活を送っている。</p> <p>本学では、日本学生支援機構、同窓会奨学財団、県市町村教育委員会、民間諸団体の各種奨学金を取り扱っている。また、健康で学業成績や人物が優れ、経済的理由のために修学が困難な学生に対し、学業の継続を目的とした各種の奨学金制度があり、学生ポータル及び掲示等により、積極的に周知を図っている（根拠資料 6-2-6, 6-2-7）。</p>						
<b>3.【長所・特色】</b>						
<p>本学独自の学費等減免制度として、特待生制度、特別奨学生制度、入学試験成績優秀者、経済的理由等により修学困難な者、緊急的事情等により修学困難な在学する学生、留学生に対する各種制度がある。</p>						
<b>4.【課題】</b>						
<p>①奨学金貸与の奨学生に対しての返還指導等により、返還の意識向上を図る必要性がある。</p> <p>②特待生制度及び特別奨学生制度は人数に制限があるため、修学の意志があり、経済的理由により修学困難な在学学生を救済するための給付型による奨学金制度を導入する検討が必要である。</p> <p>③他の学費等減免制度については、それぞれの制度の特徴を活かしながら、さらなる充実を図っていく必要がある。</p>						
<b>5.【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】</b>						
<p>各種奨学金の周知・徹底を図るとともに、奨学金返還の意識向上に向けた対策を策定する。また、経済的理由のために修学が困難な学生に対し、給付型による奨学金制度の導入を検討する。</p>						
<b>6.【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること</b>						
1. 資料 6-2-6 「奨学生集計表 I（日本学生支援機構）2016/03/18」						
2. 資料 6-2-7 「各種奨学金受給一覧（2016）」						

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>

<所見>

各種奨学金の周知・徹底を図るとともに、奨学金返還の意識向上に向けた対策を策定しなければならない。また、経済的理由のために修学が困難な学生に対し、給付型による奨学金制度の導入を検討する必要がある。特に、日本学生支援機構から約 1,400 名の学生が奨学金の貸与を受けており、奨学金の仕組みを理解させ返還指導を徹底しなければならない。

※各項目について、2～3行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部局・関係委員会名：学生課

記入責任者：山下 友司

基準 6 学生支援						
(3) 学生の生活支援は適切に行われているか。						
< 各部局・関係委員会評定 >	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
< 自己点検・評価実施部会等評定 >	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
<b>1. 【自己点検・評価する際に留意した点】</b>						
<b>【評価の視点】</b>						
1. 心身の健康保持・増進および安全・衛生への配慮						
<b>【評価に際し留意すべき事項】</b>						
1. 達成度評価						
< 生活支援 > 学生相談室等，学生の相談に応じる体制の整備，学生への案内						
<b>【行動計画】</b>						
健康診断の実施結果に基づく事後指導及び UPI（心理的スクリーニング）実施結果に伴う面談を行い，連携に必要な情報共有を促進する。						
<b>2. 【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】</b>						
健康診断の事後指導 32 名，UPI 実施結果に伴う面談を 9 名実施し，学生情報を収集しながら継続的な支援を行っている。また，平成 28 年度からは，学生相談室を全ての平日に利用できる体制とした。なお，全学生に対し，オリエンテーション時に学生相談室のリーフレットを配付し，周知を図っている。さらに，オリエンテーション時（UPI 実施を通して）に，相談員が学生相談室の利用説明も行っている（根拠資料 6-3-1，6-3-2，6-3-3）。						
<b>3. 【長所・特色】</b>						
UPI 実施 2 年目を迎え，新入生の心に問題を持つ学生の把握，フォローに努めており，休・退学予防に繋げている。また，経年的フォローデータの集積も継続している。						
<b>4. 【課題】</b>						
①学生課と連携した学生支援ができるよう，必要に応じて情報共有を図るための共通認識を得る必要がある。						
②メンタル面の相談が増えていることから，学生のさらなる実態把握に努め，学生相談室の利用促進を図る必要がある。						
③積極的支援が必要と判断される学生への対応を進めるため，キャンパスソーシャルワーカー等の専門職員の配置の検討が必要である。						
<b>5. 【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】</b>						
学生課，保健室，学生相談室が連携を取りながら，学生の実態把握に努め，継続的な学生支援を構築する必要がある。また，キャンパスソーシャルワーカー等の専門職員の配置も検討する。						
<b>6. 【根拠資料】 資料名を明記し，現物を添付すること</b>						
1. 資料 6-3-1 「2016 年度 保健室利用状況」						
2. 資料 6-3-2 「平成 28 年度 UPI 面談者一覧」						
3. 資料 6-3-3 「鹿児島国際大学学生相談室リーフレット（学生用）」						

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>

<所見>

メンタル面の相談が増えていることから、学生課、保健室、学生相談室が連携を取りながら、学生の実態把握に努め、教職員が連携して継続的に学生支援を行う必要がある。

※各項目について、2～3行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部署・関係委員会名：学生課

記入責任者：山下 友司

基準 6 学生支援						
(3) 学生の生活支援は適切に行われているか。						
< 各部署・関係委員会評定 >	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
< 自己点検・評価実施部会等評定 >	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
<b>1. 【自己点検・評価する際に留意した点】</b>						
【評価の視点】						
2. ハラスメント防止のための措置						
【評価に際し留意すべき事項】						
1. 達成度評価						
各種ハラスメント防止に向けた取り組み						
【行動計画】						
平成 28 年度は、新入生（1 年生）に対し、ハラスメントを含めたキャンパスライフ研修会を実施する。また、学生生活上のトラブル防止のための冊子を配付し、注意喚起を促す。						
<b>2. 【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】</b>						
平成 28 年度は、新入生（1 年生）に対し、オリエンテーション期間中に人権教育の中でハラスメントを含めたキャンパスライフ研修会を実施し、590 名の学生が受講した。また、オリエンテーション資料に学生生活上のトラブル防止のための冊子を配付し、注意喚起を促した（根拠資料 6-3-4, 6-3-5）。						
<b>3. 【長所・特色】</b>						
本学では、ハラスメントの防止及び排除のための措置並びにハラスメントに起因する問題が生じた場合に適切に対応するため、規程を定め、ハラスメントのない環境づくりに努めており、学生相談室の相談員をはじめ、大学院各研究科、各学科、各事務部局に相談員を置いている（根拠資料 6-3-6）。						
<b>4. 【課題】</b>						
在学生に対するハラスメントへのさらなる理解促進と研修会開催による、ハラスメントのない環境づくりに努める。						
<b>5. 【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】</b>						
在学生に対するさらなるハラスメント防止の取り組みを検討し、全教職員に対して研修会の充実や相談マニュアル作成の検討をあわせて行う。						
<b>6. 【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること</b>						
1. 資料 6-3-4 「平成 28 年度前期オリエンテーション日程表（「キャンパスライフ研修会」講師依頼文書）」						
2. 資料 6-3-5 「知っておかないと大変なことに！ 生活トラブルを防ぐ本」						
3. 資料 6-3-6 「ハラスメント防止リーフレット（平成 28 年度版）」						

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>

<所見>

平成 28 年度から、新入生オリエンテーション期間に実施している人権教育の中でハラスメントを含めたキャンパスライフ研修会を実施している。また、学生生活上のトラブル防止のための冊子を配付し、注意喚起を促していることを評価する。全教職員に対して、研修会の充実や相談マニュアル作成の検討を期待する。

※各項目について、2～3 行を目安に簡潔に記載してください。



## 基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部署・関係委員会名：就職キャリアセンター・就職キャリア委員会

記入責任者：就職キャリアセンター田平和樹

基準 6 学生支援						
(4) 学生の進路支援は適切に行われているか。						
<各部署・関係委員会評定>	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評定>	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
<b>1.【自己点検・評価する際に留意した点】</b>						
<b>【評価の視点】</b>						
①進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施						
②キャリア支援に関する組織体制の整備						
<b>【評価に際し留意すべき事項】</b>						
<b>【基盤評価事項】</b>						
①学生の進路選択に関わるガイダンスを実施するほか、キャリアセンター等の設置、キャリア形成支援教育の実施等、組織的・体系的な指導・助言に必要な体制を整備していること。						
<b>【達成度評価事項】</b>						
③学生支援の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。						
<b>【行動計画】</b>						
<b>【①進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施】</b>						
イ 進路支援方針に基づいた就職支援ガイダンスの在り方を検討						
ロ 進路支援方針に基づいた1・2年次対象の支援ガイダンスの在り方を検討						
ハ 進路支援方針に基づいた本学主催合同企業説明会への福祉施設・団体の参加枠拡大を検討						
<b>【②キャリア支援に関する組織体制の整備】</b>						
ニ 進路支援方針に基づいた資格・受験対策講座の在り方を検討						
ホ 進路支援方針に基づいた新規に外国人留学生インターンシップを検討						
ヘ 進路支援方針に基づいたキャリア形成支援の在り方を検討						
<b>2.【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路支援方針策定（案）等の検討を行ったが、成案を得られなかった。</li> <li>・上記イ・ロ・ニ・ヘについては就職キャリア委員会において4月に年間計画、以後適宜報告・検討され、3月には平成29年度各種支援行事（案）の検討を行った。【根拠資料6-4-1】</li> <li>・上記①-ハについて、10月の本学主催合同企業説明会で初めて福祉系施設・団体の6法人が参加し、社会福祉学科・児童学科の参加者が増加（5名→20名）した。【根拠資料6-4-2】</li> <li>・上記②-ニについて、初めての取組みとして、10月の演習時間帯に経済学部2年生を対象にSPI模擬試験を実施し177名が受検した。また、3月のオリエンテーションにおいて全学部新3年生を対象にSPI模擬試験を実施し、116名（受験率20.7%）が受検した。【根拠資料6-4-3】</li> <li>・上記②-ホについて、外国人留学生支援として初めて7月に就業力育成研修を実施し、アンケートでも、ほぼ全員が参考になった、満足と回答があった。また、鹿児島商工会議所との包括連携協定に伴う連携事業として12月に地元企業との座談会を実施した。【根拠資料6-4-4】</li> </ul>						
<b>3.【長所・特色】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月の本学主催合同企業説明会において福祉系施設・団体6法人が参加し、社会福祉学科・児童学科学生の動員に繋がり、参加法人からは次年度継続参加の希望もあった。</li> <li>・7月の就業力育成研修、12月の地元企業との座談会において、本学OGや若手社員（元留学生）との交流があり、日本や鹿児島で就職するための取り組みなどを知る機会となった。</li> </ul>						

<b>4. 【課題】</b>
・進路支援方針の策定。
<b>5. 【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】</b>
<p>今後は、進路支援方針を策定し、進路支援方針に基づいた各種ガイダンス、資格・受験対策講座、就業力育成研修及び国内インターンシップ（外国人留学生含む）の定期的な検証を継続的に実施する必要がある。また、低学年向け支援（ガイダンス、就業力育成研修等）により就職意識の向上に取り組む必要がある。</p>
<b>6. 【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること</b>
<p><b>【根拠資料6-4-1】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016（平成28）年度就職キャリアセンター行事・業務実施予定表（案）（20160413 就職キャリア委員会資料）</li> <li>・2017（平成29）年度就職キャリアセンター主な支援行事年間予定表（案）（20170308 就職キャリア委員会資料）</li> <li>・就職活動のマップ（20170308 就職キャリア委員会資料）</li> <li>・2016（平成28）年度就職キャリアセンター行事・業務実施予定表（参考）（20170308 就職キャリア委員会資料）</li> </ul> <p><b>【根拠資料6-4-2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿児島国際大学合同企業説明会開催要領（20160713 就職キャリア委員会資料）</li> <li>・合同企業説明会参加企業一覧</li> <li>・大学主催合同企業説明会報告（20161012 就職キャリア委員会資料）</li> </ul> <p><b>【根拠資料6-4-3】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「経済学部2年生」対象のSPI模擬試験の実施について（案）（20160713 就職キャリア委員会資料）</li> <li>・「経済学部2年生」対象のSPI模擬試験の実施について（報告）（20161109 就職キャリア委員会資料）</li> <li>・就職試験対策！SPI模擬試験の実施について</li> <li>・就職試験対策！SPI模擬試験受検会（報告）（20170328 大学運営会議資料）</li> </ul> <p><b>【根拠資料6-4-4】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度鹿児島国際大学の外国人留学生就業力育成研修計画（20160608 就職キャリア委員会資料）</li> <li>・平成28年度鹿児島国際大学新規事業計画書</li> <li>・鹿児島国際大学外国人留学生就業力育成研修報告（20160713 就職キャリア委員会資料）</li> <li>・『地元企業と鹿児島国際大学留学生との座談会』（20170118 教授会資料）</li> <li>・地元企業と鹿児島国際大学留学生との座談会アンケート</li> </ul>

<b>&lt;自己点検・評価実施部会等による適切性の検証&gt;</b>
<p><b>&lt;所見&gt;</b></p> <p>各種ガイダンス、資格・受験対策講座、就業力育成研修及び国内インターンシップ等各種の支援を行い、キャリア形成から進路に繋がる支援を実施している。また、平成28年度入学生から「地域人材育成プログラム」を開設している。今後は進路支援方針を策定し、この方針に基づいた検証を継続的に実施する必要がある。</p>

※各項目について、2～3行を目安に簡潔に記載してください。